

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団	
施 設 名	八王子市芸術文化会館 いちょうホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	12,660	(千円)
	公 演 事 業	1,904 (千円)
	人 材 養 成 事 業	9,863 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	893 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	演劇のための長くてゆるやかなアーティスト・イン・レジデンス鳥公園と八王子の1年目	3/17~3/19	『ヨブ呼んでるよ =Hey God, Job's calling you!』上演 演出：三浦雨林、作：西尾佳織	目標値	500
		八王子市芸術文化会館		実績値	449
2	八人の王子たち 第7楽笑!~王子、恋をする~	1/7	出演：磯野正明、ビルマン聡平、中山博之 他 曲目：恋とはどんなものかしら 他	目標値	290
		八王子市芸術文化会館		実績値	269

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	八王子ユースオーケストラ	4~3月	井田勝大(芸術監督・指揮) 練習、演奏会等 出演:バレエシャンブルウエスト他	目標値	参加メンバー数 43 人 入場者数 計 1,270 人(※内訳: イーアス 100 人/20周年公演 750 人/バレエコラボ公演 420 人)
		八王子市 芸術文化会館 他		実績値	参加メンバー数 43 人 入場者数 計 2,116 人(※内訳: イーアス 450 人/20周年公演 1,054 人/バレエコラボ公演 612 人)
2	八王子ユースシアター2022: つくる、タマリバ。	12/16~12/18	上演団体: 演劇ネットワークぱちぱち、都立昭和高校演劇部、都立日野台高校演劇部	目標値	入場者数 100 人(50 人×2日=100 人)・視聴者数 100 人 参加者数 150 人
		八王子市 芸術文化会館		実績値	入場者数 250 人(60+57+71+62=250 人)・視聴者数 70 人 参加者数 43 人
3	演劇ネットワーク「ぱちぱち」	5/14~29、12/16、12/18、2/5~7	鳥公園の「ジコショウカイ展」 ファシリテーター: 西尾佳織 他 上演『きょうげんあそび』 他	目標値	入場者数 延 100 人 イベント参加者数 100 人(計 200 人)参加メンバー数 30 人
		八王子市芸術文化会館 学園都市センター 他		実績値	入場者数 827 人 参加者数延 327 人(計 1,054 人)

4	アートマネジメント人材養成プログラム	5~3月	プログラム策定計画講座、舞台やアートの専門性を身につける講座、社会包摂をテーマとした講座	目標値	参加者数計 230 人(プログラム研修 10 人×5 日=延 50 人、舞台アート研修 30 人×4 回=120 人、社会包摂研修 30 人×2 回=60 人)
		八王子市芸術文化会館 岡村織物工場 奥田染物工場		実績値	参加者数計 159 人(プログラム研修 延 110 人、舞台アート研修 延 36 人、社会包摂研修 13 人)

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	音楽講座シリーズ 『王子の授業』	5/15、8/28、12/4	講師：中山博之(ピアノ)、ビルマン聡平(ヴァイオリン)、園山正孝(テノール)他	目標値	参加者：30人×3回＝90人
		八王子市芸術文化会館		実績値	参加者 94人
2	いちようホール ロビーコンサート &ステップアップ コンサート	4～3月	出演：一般公募(ロビーコンサート)、 荻原千史、ロージナ・デュオ、もっちゃん★みーた	目標値	ロビー：参加(出演)数 40組 / 入場者数 延 1,692人 ステップアップ：参加 (出演)数 3組 / 入場 者数 138人
		八王子市芸術文化会館		実績値	ロビー：参加(出演)数 33組 / 入場者数 延 759人 ステップアップ：参加 (出演)数 3組 / 入場 者数 124人
3	学校アウトリーチ コンサート「いち ようホール発！ラ ♪ラ♪ラ コンサ ートツアー」	6～12月	内容：アフリカの音楽とダンス、木管 五重奏、金管五重奏、弦楽四重奏、ブ ギウギピアノ など	目標値	実施校数5件 入場者 数(児童生徒)延べ750 人
		八王子市内 小中学校		実績値	実施校数7件 入場者 数(児童生徒)延べ 1,604人
4	劇団「鳥公園」 演劇作品『昼の街 を歩く』プレイベ ント	10～3月	講師：蜂巢もも(演出家)、講師：西 尾佳織(劇作家)、長島確(ドラマトウ ルク)	目標値	90人
		八王子市芸術文化会館 星槎国際八王子 高尾キャンパス他		実績値	91人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等(ミッション)や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>市民を対象にした、使いやすく親しみやすい身近な中規模ホールとして、芸術文化の鑑賞・普及や市民参加・市民の芸術文化活動の増進を目指した事業計画を組み立てた。また学園都市である当市の特徴を踏まえ、学生が学べる機会、活動する機会を提供することを盛り込んだ。なお、音楽コンサートや落語会他のジャンルのなかでも、演劇関心層の開拓が課題であったため、演劇事業に注力した。</p> <p>演劇公演の集客は8割強、うち市民の来場割合は少なかった。演劇を見る機会の少ない市民、市内外の演劇ファンや劇団自体のファン等、ターゲットをどこに設定してPRするのかといったマーケティングはもちろん、財団の内部広報が不十分であった。取り組みとしては、並行して実施した学生・若者対象の演劇ワークショップ事業のメンバーがスタッフとなってプロ劇団のワークショップを手伝うなど、市民とアーティストのコミュニケーションの場を創ったことは若者・演劇にとって学べる機会となったが、それ以上に何より演劇関心層の市民とアーティストの双方に有意義であった。アーティストの作品のリクリエイションの取り組みは目的を一定程度達成したものの、アーティストの負担が想定より多くなり、体制の改善やプログラムのクオリティ向上、企画協働の方法やフロー・コミュニケーション方法など、事業の総合的な見直しが課題となった。</p> <p>「八人の王子」公演は、これまでシリーズとして展開してきた中でもより一層企画性を高め、“八王子”の地名の由来になぞらえたオリジナリティの高い演出で公演を実施し、独自性のある舞台の展開を試みた。</p> <p>人材養成事業においては、学校生徒や学生など若者を対象とした事業を展開し、特に演劇では外部の専門のディレクター2人と学生・若者たち、財団職員の三者が試行錯誤を行いながら企画制作を行い、三様にコミュニケーションやマネジメントに挑むことができた。また、アーティストや関係専門職を招いた講座では、専門性のある視点や考え方を学び、シンプルな公演制作とは異なる、街(市民)とアート(アーティスト)の関係づくり・プログラムづくり・アートマネジメントについて考える視座を身につけることができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 文化的意義：財団が近年取り組んでこなかった演劇分野の開拓を行った。学園都市の特性を活かし若者・学生の自立性を高めるコミュニケーション型ワークショップを展開し、演劇への関心を増加させた。あわせてプロ劇団のアーティストの声を聞き、新作評価主義、創作と運営の負担からの解放とともに、自らの創作の振り返り、リクリエイションを通じて、劇作家がドラマトルクと向き合う時間や市民との交流を持ち、戯曲の充実を行った。・ 社会的意義：創作の過程を市民や若者に公開または共有する演劇事業やユースオーケストラの活動を通じて、アーティスト・市民・若者の第三の居場所となり、また学校アウトリーチやステップアップコンサートなどを通じて、当ホールがプロと市民と若者・生徒を繋げる社会的役割を果たした。・ 経済的意義：市民やアーティストが行う比較的長時間のワークショップや街歩きによる参加者の、そして公演の鑑賞による集客によって、中心市街地における経済の活性化に貢献した。

(2)有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業においては、演劇事業と音楽公演の各アーティストと緊密な連携を図った(対目標 97%/指標「理解度」)ものの、創作過程の公開への参加者の度合い・関心度は低い結果となった。鑑賞者についても数字こそ対目標 83%となったが、演劇のアンケート結果からは市民の割合が低く、また音楽事業も演出の工夫を行った割には伸び悩んだことを考えると、アーティスト及び周辺と事業のたてつけから冷静に振り返り、PR 訴求の脆弱さ、事業のブランディングなど、コンセプトや企画の課題としてゼロから見つめなおす必要がある。

人材養成事業においては、アートに対する専門性・人を動かす力・伝える力といったアートマネジメントスキルは各事業の推進及び職員の学びを経て、コミュニケーションが増進され参加率も向上(音楽 10%、演劇 50~200%)したが、専門スキルやリーダー的資質が及ばない状況(対目標 72~86%)である。

普及事業においては、音楽講座は数字上大変好評であるものの、新規の参加者が少ないことからすそ野の広い顧客拡大が今後の課題である。ロビーコンサートやステップアップコンサートでは入場者数は目標の各 71.5%にとどまった一方、市民自ら演奏する意欲は高くなっている(対前年各 22%・33%)。学校へのアウトリーチは演奏家への教育を伴った委託導入により増やすことができ、子どもたちへの生演奏体験の増進に貢献できた。演劇の上演作品プレイベントはほぼ想定通りの入場者数であった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

演劇のための「ゆるやかな」アーティスト・イン・レジデンスではその名の通り、劇作家が作品のリクリエイションについて通年で時間をかけて取り組んだ。2～3年という事業期間設定の初年度として、劇作家とドラマトウルク、市民、財団職員の勉強会や交流・議論を重ね、アーティストの課題意識(文芸と制作の最適化)の理解や、地域が演劇に関心を寄せるための仕組みづくりなど、アーティストと八王子(財団や市民など)が協働する座組を模索した。運営も事務の見直しが必要となったことから、公演の準備や直前の取り組みの制作期間の必要である。

演劇ネットワーク「ぱちぱち」やユースシアターでは、特に上半期に大人チーム(財団・委託先)の協働で試行錯誤があったが、学生・若者の参加者は事業への関心は高く活発な活動が展開した。

八人の王子やユースオーケストラについては、既存の枠組みの上に、前者は演出の企画を、後者ではホールから飛び出し商業施設で市民の前で演奏する企画をたてて前年度から調整することで、スケジュールとしては計画通りに実施できた。

学校アウトリーチやステップアップコンサートでは、上半期のうちに財団のマネージャー等による演奏家へのコンサルティングを行い、演奏家と財団スタッフによる体制の充実や演奏会の構成の質の向上を図ることができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費としては、前年度に組んだ予算をもとに行ったものの、新規性の高い事業や試行錯誤の取り組みが多かったこともあり、企画がまとまり理解され内部に浸透するまでに時間がかかり、PR体制の構築に時間を要したことから、予算執行には難しさを伴った。事業費と事業スケジュールは密接であり、予算とスケジュールを組み合わせた戦略的な執行体制が今後の課題となった。

八王子ユースオーケストラ事業、および八王子ユースシアター事業では、当初の計画から執行額が大幅に減少する結果となった。その一要因として、舞台や練習の運営にスタッフのリソースを割いてしまったことから、PRにおいてきめ細やかな取組みを執行できなかったことがあげられる。

一方で、コスト対効果を高めたことにより執行額を押さえられた側面もある。一例としては、八王子ユースオーケストラ事業で、街中での演奏や他の団体との共演など、企画の充実をもってこれまでより広い範囲でのPR効果を得ることができたことなどがある。また、技術未到達のメンバーへのフォローなどを予定していたところ、練習計画の組立て方・工夫により、予定より予算を押さえることができた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった(と認められる)か。

音楽や伝統文化など比較的中高年齢層の地域住民の求めるニーズとは別に、この地域では取り組みの少なかった演劇分野の開拓を行った。すでに学生・若者が自主・自立的に取り組んでいるワークショップが学園都市八王子の特徴を活かす人材養成事業と、プロの演劇人の公演を鑑賞する機会、創作過程を知る・見る機会を提供した。演劇に関心を持つ市民層の醸成を目指し、学生の活動に演劇というキーワードを取り入れて人材づくりをまず始めた視点においては、当ホールがまず学生にとって魅力的になることを目指した。そこに来れば仲間がいて大人も同じ高さの視点で悩みの相談や企画の議論ができる場所を用意した。

公演においては、演劇人と市民がその脚本を読むワークショップや作品にどのように表現するのが良いのかを考えるワークショップや勉強会、演出をつけていく過程を公開する公開稽古、そして公演直後には舞台演出の詳細について市民とアーティスト側のトークセッションを行うなど、演劇の創作過程の価値化に取り組んだ。市民に向けた取り組みとしながらも、アーティストと財団の多くのコミュニケーションを通じて、アーティスト自身が演劇界の中で表現者として確立を目指し新作づくりに奔走するなかで失ってきた、作品に丁寧に向き合い改善し高めていく時間を取り戻す事業づくりに取り組んだ。これは公共機関としての財団がアートの方法論や視点を地域に還元すると同時に市民がアートの客観性に寄与し、アーティストが真にアートに向き合う時間づくりを行うことにつながった。

また、ユースオーケストラの活動では、普段、家庭と学校の部活動・塾などと違った第三の居場所として、所属する学校の枠を超えて集まった多様な価値観をもって自主・自立的な音楽活動の体験を得る環境を作り出すことに取り組んだ。互いの事情や考えを尊重し思いやり許しあう文化や唯一無二の音楽を目指すオーケストラの文化、大人が子どもに教え、また年齢の異なる子どもやスキルを持った子とそうでない子が一緒に動き教えあう文化を育んだ。

学校アウトリーチやステップアップコンサートでは、その先に子どもたちや観客が待っている演奏家に対して、どのように公演を作るのが良いか構成や観客を飽きさせない仕掛け・演出などを共に考え導き出す役割を果たすことができた。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった(と認められる)か。

プロの演劇の創作過程を公開し、企画の視点や創作のノウハウなど演劇の専門性を市民や若者や学生が学んだことで、その後の彼らの演劇創作や市民生活に新たな価値観をもたらした。若者・学生の演劇ワークショップは徐々に層が厚くなり自主的な企画が多く生まれている状況である。この状況を常にホームページや SNS その他で発信することでそれぞれの事業のイメージやブランディングが効果を生み出し、ひいては八王子地域の演劇の素地づくりにつながっている。こうした若者の企画が、具体的には幼稚園での上演「狂言遊び」(令和4年度)や市の中心部にある桑都テラスからのオファー(令和4年度)・市民センターからのオファーなど(令和5年度)につながった。こうした地盤づくりはさらに次のプロの誘致企画につなげる方針で、プロ演劇の鑑賞や創作過程の公開、アーティストのリクリエイション活動の事業体系と、若者・学生の文化芸術活動(ワークショップなど)を主軸とした人材養成事業体系のふたつが両輪となって、演劇の大きな芸術文化振興の柱となっている。

八人の王子たちにおいては演出のモデルケースとしてクラシックを笑いながら楽しめる事業づくりを意識した。グッズを作りキャラクター性を持たせストーリー仕立てに演出した内容は観客に楽しんでもらえた。狙いとしての演奏家ひとりひとりにファンができるという状況と、八王子市芸術文化会館の戦略として主催者となりうる若手の演奏家や歌手に見てもらい、クラシックの普及モデルと捉えてもらうことにつなげていく。ステップアップコンサートや学校アウトリーチにおいては、次の担い手としての演奏家兼主催者の育成と子どもたちのリアルで質の高い芸術文化体験の機会提供を意識して実施し手ごたえを感じている。地味であるが地域の文化芸術の発展に繋がっている。

ユースオーケストラにおいても子どもたちが演奏するスキルを学ぶだけでなく、自らスタッフを名乗り出て企画し、商業施設で演奏することで、普段家族知人が来ることの多いホーム(ホール)での発表会でない観客への新たな意識も生れ、活動の中で個でなく社会性を育むことで、地域に向かって演奏する活動となっている。時間はかかるが確実に成長し、卒業したメンバーがサポートメンバーとして後進の指導のサポートに入り、自主的なグループを作って地域で演奏活動を始めるなど、着実にその果実は生まれている。こうした継続した活動を市民に知ってもらい地域の大人の支援を呼ぶ(子どもたちを大人が支える)仕組みづくりを進めていく。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する(と認められる)か。

【事業運営】

・八王子市芸術文化会館では、施設管理部門の八王子芸術文化会館職員と事業制作部門の芸術文化振興課職員の2所管で相互連携を取りながら事業運営を行っている。業務内容を棲み分け、それぞれが専門性を高めることにより、提供するサービスの水準を高めることができている。芸術文化振興課職員は八王子芸術文化会館のほか、当財団が指定管理者である八王子市南大沢文化会館、学園都市センター、八王子市民会館の事業を統括しており、各館事業の企画・制作・運営を担っている。そのため、専門的な知識・ノウハウを蓄積し活かしながら、館ごとのミッションに沿った総合的・立体的な事業を組み立て展開している。

・人材養成事業では、若手の実演家を育てると同時に、将来的にアートマネジメントを担う人材を育てることに焦点を当て、劇団の企画制作・PRを行う学生マネージャーなどの取組みを実施している。

【経営戦略】

・芸術文化の普及・振興を推進する所管の体制充実を図り、アートマネジメント人材の養成を軸に公演事業のスキームづくり、事業の継続性を踏まえたブランディングを行う。アートと地域を繋げる継続的体系的事業の開発に予算と時間と体制を注いだ。

・対象ジャンルの幅を広げながら、地域のニーズに応え、潜在的ニーズを刺激するマーケティング的な観点で市民社会の把握と開拓・多様な体験機会の提供を行う。次世代・若年層対象の事業の充実を図る。

【人事戦略】

・当館での職員の雇用は、正職員・無期雇用職員の割合はそれぞれ 33 名、26 名で両者の合計は、他の臨時職員や委託スタッフも合わせたスタッフ全体の 68.6%となっている。職員の担い手としての人材養成と市民によるボランティアスタッフの募集や位置づけは、市民視点かつ持続可能な体制作りやこれからの企画づくりに必要だと考えているが、まずは貸館対応と事業企画運営の交流はさらに人事交流しノウハウや視点を共有していく。

【ネットワークの構築】

以下の機関・団体等とネットワークを構築し、組織活動の持続性を担保している。

- ・バレエシャンプルウエスト(提携事業)
- ・八王子車人形西川古柳座(八王子車人形提携事業・伝統文化ふれあい事業)
- ・一般社団法人 AsoVo(演劇ネットワークぱちぱちの制作・運営) ほか

【PDCA サイクル】

事業部門においては、芸術文化担当部長(アートマネージャー)のもと、各事業担当者が企画・制作・運営を行い、収支報告・チケット販売実績・アンケート調査を踏まえた事業評価を行い次の計画に活かしている。また、年度終了時には、協働する実演家やディレクターとも振り返りの場を設け、成果および課題を次年度の取組みの改善に活かしている。